

応募者と家族のための

F. A. Q.

2016年10月現在
(公社)UWC日本協会

1. 応募資格に関して

《Q1》なぜ高校2年から2年間なのか？

16歳からの2年間は、UWC創立以来の原則であり、国際バカロレア・ディプロマ課程の要件でもある。寮生活を通じて国際教育を行うことを考えると、柔軟性ととともに自立性を備えたこの時期が、最適と思われる。

《Q2》日本協会の選考試験時に高校2年生である場合、受験できるか？

現在、UWC日本協会では、在籍学年および年齢に関する応募資格を以下のとおりとしている。

- 4月に新学期が始まる学校に在籍している場合、2017年3月現在、高等学校もしくはこれに準ずる学校の第1学年に在籍していること。
 - 9月に新学期が始まる学校に在籍している場合、2017年3月現在、国際バカロレア・ディプロマ課程の始まる前の学年に在籍していること。
 - 2017年9月1日現在、原則、満16歳以上であること。
- よって、4月に新学期が始まる学校に在籍している高校2年生は対象外となる。

《Q3》現在、日本の高校から海外の高校に交換留学中だがUWCを受験できるか？

UWC日本協会の募集要項に記載されている応募資格を満たしていれば、受験はできるが、日本に一時帰国して、日本協会の実施する選考試験を受験することが要件となる。

《Q4》両親の転勤で幼少期より海外に在住しており、現地のインターナショナル・スクールに通っているが、UWCを受験できるか？

UWC日本協会の募集要項に記載されている応募資格を満たしていれば受験は可能だが、日本に一時帰国して、日本協会の実施する選考試験を受験することが要件となる。また日本協会の選考試験は、国語や小論文、日本語面接など、主として日本で初等中等教育を受けていることを想定しているため、長く海外で生活している場合は、日本協会に個別に相談されたい。

日本協会がダイレクト・エントリー（UWC 各カレッジへの個別、直接応募）が適切と判断した場合は、ダイレクト・エントリー（Q6 参照）の手続きを勧めるケースも多い。

《Q5》国内のインターナショナル・スクールに通っている。英語のみで筆記試験を受けることはできるか？

日本協会の選考試験は、国語や小論文、日本語面接など、主として日本で初等中等教育を受けていることを想定しているため、1次・2次ともに英語のみで受けることはできない。該当者は、日本協会に個別に相談されたい。

日本協会がダイレクト・エントリー（UWC 各カレッジへの個別、直接応募）が適切と判断した場合は、ダイレクト・エントリー（Q6 参照）の手続きを勧めるケースも多い。

《Q6》UWCの各カレッジにダイレクト・エントリー（個別、直接応募）はできるか？

UWC 国際本部の制度では、日本在住の日本国籍を持つ日本人は、原則として全員、日本協会が実施する選考試験を受験する必要があり、各カレッジへの個別、直接応募（ダイレクト・エントリー）には、日本協会の許可が必要となる。特別な事情等がある場合は、日本協会にご相談されたい。日本協会がダイレクト・エントリーが相応しいと判断した場合は、各カレッジに経費等の条件を直接確認の上、個別に受験手続きを進めることとなる。ダイレクト・エントリーで受験できるカレッジは1校のみとなる。

尚、UWC の制度では、一人の生徒が UWC（ディプロマ課程）に応募できるのは一回限りとなっているため、特別の事情でダイレクト・エントリーが認められた生徒は、日本協会が実施する選考試験は受験できない。

2. 選考試験に関して

《Q1》第1次選考の英語・国語・数学ではどの程度のレベルの学力が要求されるのか？

国語と数学（数I）は高校1年修了程度、英語は実用英語検定2級程度を試験範囲としている。過去問は公表していないが、毎年、説明会で日本協会より簡単に内容を説明する。

《Q2》第2次選考の英語面接では、英語力はどの程度必要か？

目安としては英検2級程度だが、カレッジでの生活は、授業も寮生活も原則

全て英語で行われる（コスタリカ・カレッジを除く。コスタリカ・カレッジは英語とスペイン語）ので、流暢とまではいなくても英会話はある程度できることが望ましい。

《Q3》 第二次試験のグループ・ディスカッションとはどのようなものか？

グループ・ディスカッションでは、第1次試験合格者が6～8人程度のグループに分かれて、提示された議題について日本語で討議する。自分の意見を述べるのみでなく、他の人の意見に耳を傾け、自分の考えを整理して皆に伝えることや相手の立場を尊重することなども重要。対策としては、日頃から新聞やニュースなどを通じて国内外の時事問題に関心を持ち、自分なりの問題意識を養うことや、ボランティア活動、クラブ活動などを通じて自分の実体験を増やすことなどに心がけると良い。

3. カレッジでの生活に関して

《Q1》 買い物は？

文房具、菓子などが買える売店が構内にあるカレッジもある。ない場合でも、日用品はインターネット通販や周辺の商店で手に入るため不自由はない。

《Q2》 寮生活は？ 学校の設備は？

寮は、男女別の階ないし建物に分かれている。各部屋には、異なる国籍・人種の生徒が、2人～5人割り当てられる。日本人同士が同室になることはない。各校とも寮のほかに、食堂、講堂、図書室、特別教室などの設備がある。

《Q3》 衣類は？

日常生活の典型的服装は、ジーパンとTシャツ。途上国からの留学生も多く、高価なものは不向きである。男子はスーツ、女子はやや正式なワンピースが一着あると便利。着物（浴衣）は必需品ではないが、文化紹介などで着用する機会は多い。

《Q4》 食事は？

3食とも、決められた時間に食堂でとる、セルフ・サービス方式。メイン・ディッシュは、2～3種類から選択するカレッジが多い。カレッジによっては授業時間の間に軽食（クッキーとお茶など）が用意される。アレルギーや宗教に対応が可能なカレッジもあるため、不安な方は日本協会に個別に相談されたい。

《Q5》 宗教は？

自由。個人の信仰は尊重される。宗教についての討論会や、他宗教を知る機会などもある。

《Q6》 夏休みの過ごし方は？

夏休みの期間が2カ月～3カ月ということもあり、ほとんどの生徒が帰国する。留学先国で旅をする生徒や、友人の出身国を訪問する生徒もいる。各校とも生徒が寮に滞在することは認めていないが、ホームステイ先を探してくれる場合や、滞在費を支払えば(あるいは指定された労働を行えば)寮に残ることができるカレッジもある。

《Q7》 安全面は？

警備員の勤務体制などは、カレッジにより異なる。各校とも比較的安全な地域に所在するが、日本とは治安も異なるため、校内・外の行動において自己管理能力は必要となる。

《Q8》 アルコールやドラッグの問題に直面したらどうすればよいか？

UWCの所在国ごとに、飲酒・喫煙やドラッグなどに関する規定・法律また罰則規定は異なるが、ドラッグはもちろんのこと、飲酒・喫煙といった行為は、全てのUWCで原則、校則として禁じられている。校則違反が発覚した場合は、保護者やナショナル・コミッティーに報告や改善要求が送られ、場合によっては退学を含む厳しい罰則が科される。周りの動向には関係なく、言動、行動の全てに自己責任や自己管理能力が求められる。

《Q9》 病気になった場合のケアは？

看護師および校医の勤務時間や校内在駐状況はカレッジにより異なるが、各校とも緊急時にも対応できる体制を整えている。

《Q10》 生活面でのトラブルや精神面で問題に直面した場合、校内にカウンセラーなどはいるのか？

カウンセラーが常勤または定期的に学校に来るカレッジもある。担当教員や医務室等に相談することもできる。

《Q11》 ハンディキャップへの配慮はあるか？

ハンディキャップへの対応については、カレッジにより状況が異なる。公平な選抜・派遣を担保するためにも、個別に日本協会に相談されたい。

4. カレッジでの勉強・進路に関して

《Q1》授業の程度・内容は？

科目によっても異なるが、一般に、主要教科は大学教養課程、補助教科は高校と同程度以上と言われている。作文・実技・実験・レポートなどに重点が置かれる。暗記よりも理解力が問われ、興味のあるものについて深く追求することが求められる。宿題も多く、「人生で最も多忙な2年間だった」と語る卒業生もいる。

《Q2》履修科目はいつ決定するのか？

留学前に資料の送付を受けて検討したうえで、留学直後に指導教員と相談し、原則的には9月中に決める。授業開始後一定期間は変更が可能なので、「不向きだ」「ついていけない」という場合には、早いうちに担当教員に相談することをすすめる。

国内、海外大学共に、IB の特定科目やレベルの履修を受験の必須要件とする学部がある（医学部をはじめとする理系学部、経済学部など）。すでに検討している大学や学部がある場合は、指定要件を各大学の HP や教務課などに事前に確認することをすすめる。

《Q3》大学への進学は？

日本、アメリカ、ヨーロッパの大学に進む卒業生が多い。（詳細は、配布資料5「UWC 卒業後の進路について」を参照）

進学については、各カレッジの担当教員のほか、卒業生にも相談することをすすめる。

《Q4》日本の大学に進学する場合に受験勉強を別途する必要があるか？

IB（国際バカロレア）を認定する大学や学部は増加傾向にあり、認定校を受験する場合は、UWC での経験や IB の成績が大学受験に直結するので、別途受験勉強をする必要はほとんどない。一方で、志望校が IB を認定しておらず、一般受験となる場合には、IB と一般入試では試験形式や重視する点、期待されている習熟度が異なるため、別途受験勉強に取り組む必要がある可能性が高く、受験準備のために予備校へ通った卒業生もいる。また、4月入学をする場合は入学が一年遅れる点にも留意する必要がある。

以上